

# 松阪牛

かわら版 3号

松阪牛協議会研修会

相可高校生と交流



2月12日、松阪牛個体識別管理システムの登録牛を肥育している農家や関係行政でつくる松阪牛協議会（会長、下村猛市長）の研修会が、多気郡多気町相可の県立相可高校などを会場に開かれました。

相可高校生産経済科の皆さんは、松阪牛を育てており、将来の担い手として大きな期待が掛かっています。この日、農家の方々は、実際に高校生が世話をしている松阪牛の前に、牛のえさや、美しい姿に育て上げるコツなどについて意見を交わし、肥育の技を伝えました。



また、同校食物調理科の皆さんが腕を振るった松阪肉を使った料理の試食会もあり、創意工夫を凝らした品々の味を楽しみました。



# 松阪牛ものがたり

九月二十八日、「十月一

## 信頼への模索③

「安全」と分かっているのに、「安心」と公表できない。平成十三年九月、国内初のBSE(狂牛病)発生により、松阪市は揺れ続けていた。

消費者の牛肉離れ、国の方針による出荷自粛、先行きに不安を抱える農家。不安定な状況が続く中で、新たに問題が発生した。

九月二十三日、学校給食での牛肉使用について、「保護者が過敏になっている」との理由で協議した結果、当面は使用を見合わせることにした。当時の市幹部のひとり「松阪牛も大事。子どもたちも大事。どちらが大事と言われれば、子どもだ」と、苦渋の決断を沈痛な面持ちで発表。期間は「BSE検査体制が確立するまでの間」とし、二十五日に予定していた牛肉の献立は急ぎよ、鶏肉に変更してしのいだ。

日より、生後三十カ月以上の出荷停止」との国の方針が、県を通じて市に伝えられた。国内で出荷されるすべての牛

に対する検査体制が整うまでの一時的な中止だったが、他の牛と違って、ほとんどが「三十カ月以上」で出荷される松阪牛にとっては、いよいよ出荷ができないときがやってきた。

十月一日、BSE発生後初めて、農家を集めた会議が松阪市内であり、検査体制や今後の見通しについて説明。どの農家も、えさの調査などから「松阪牛からBSEが出るはずがない」という自信があり、冷静な態度には、ブランドを守ってきた風格すら感じられた。



# 学校給食に松阪肉!

1月28日、全国学校給食週間にちなみ、松阪市内の小中学校の給食に、松阪肉のメニューが登場しました。

子どもたちは、郷土の味に大喜び! 楽しく味わっていました。

この日使われた松阪肉は約480kgで、松阪牛1頭分。松阪肉

事業協同組合さんの協力です。松阪牛個体識別管理システム登録の松阪肉を大量に仕入れました。



## 松阪牛個体識別管理システム 信頼の証です

シールに印字された10ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

皆さまに安全で安心な松阪牛をお届けする証を目印にお買い求めください。



発行 松阪市役所農林水産課畜産係 三重県松阪市殿町 Tel.0598(53)4119

松阪牛協議会ホームページ <http://www.matsusakaushi.jp> もご覧ください